

子育て応援アクション6

周りの人のちょっとした手助けや見守りが、親を助け、子育てを応援することにつながります。



まずは元気にあいさつ!



交通安全・防犯のため
見守ろう



子どもは泣くのが仕事。
温かい目で見守って



子どもは大人を見ている。
お手本になろう



子育ての経験を地域で
発揮しよう



職場でも子育ての話に耳を
傾けてみよう

市の取り組みを紹介します

子ども・子育ての事業は「子育て応援プロジェクト」として、市が力を入れて取り組んでいる施策の一つです。29年度は新たに「子ども未来部」を設置し、子育てに関する相談や届け出など

の利便性を高めたほか、予算も重点的に配分しています。希望を持って子どもを産み育てることができ、また、盛岡に住み続けたいと思えるよう、子育て環境の充実に努めていきます。

①健やかに育つ

子どもの成長に応じた教育・
保育を支援します



●待機児童の解消

- ・保育所の新設と改修を進めます
私立保育所の新設、改修により入所定員の拡充などに努めます。
- ・認定こども園への移行を支援
子どもの教育と保育を一体的に提供できる認定こども園への移行を私立幼稚園に働き掛けます。これまでに6園が移行しました。
- ・保育士を確保します
働きながら奨学金を返還している新採用の保育士に、返還費用の一部を補助するなど、保育の担い手を確保しています。



認定こども園第1号の
盛岡幼稚園

●放課後の子どもの居場所づくり

小学生が放課後に安心して過ごせるように放課後児童クラブを増やします。28年度には2クラブが新設、40クラブとなりました。



28年4月に新設された
上田第二学童保育クラブ

認定こども園は、行事を半日だけにしてくれたり、行事の組み方の配慮がうれしいです。保育機能もあり、延長保育にも柔軟に対応してくれるのがありがたいですね。

館澤睦子さん (42)
賢太くん (4)
=本宮六=



産後間もなく市の保健師さんが自宅を訪問してくれて、育児のほか、子どもの遊び場の情報を教えてもらったり、保育園の相談もできました。何より私が家族以外の大人と話す機会が少なかったのが、専門家に話を聞いてもらえたという安心感もありましたね。



伊藤健児さん (31)・春乃ちゃん (1)
恵未さん (29) =月が丘一=

②安心して育てる

子どもと向き合い、成長に喜び
を感じられる環境をつくります



●子育ての孤立を防ぐ

- ・乳児家庭を訪問します
保健師、助産師が生後4カ月までの乳児がいる家庭を訪問し、親一人一人の不安や悩みを聞いています。
- ・ワンストップで相談
28年4月に子育て世代包括支援センターを市保健所に設置。妊娠期から子育て期にわたる保健や育児に関するさまざまな相談に応じています。



ma*mallで遊ぶ子どもたち

●親子で遊べる場を増やす

親子が自由に楽しく遊びながら子育てに関する相談もできる施設・つどいの広場「KOKKŌ」[にっこ]を開業しています。29年4月には、新たな子育て応援の拠点「ma*mall」がオープン。「子ども」をキーワードに、市民や地域活動団体、企業などが交流、連携できる場です。

●ファミリーサポートセンター事業

会員同士が子どもの預かりや育児、介護などを支える活動を支援しています。28年度は約3700件の活動がありました。

つどいの広場「KOKKŌ」を利用しています。幼稚園などの情報交換もできるし、息子は年の近い友達ができました。駐車料金も安く、買い物をして帰れるのでご助かっています。



千葉嘉奈子さん (35)
翔太くん (2)
=夕顔瀬町=



好摩保育所「なかよし広場」を皆勤賞をとれるくらい利用しています。子どもは先生や友達が大好きで、早く行きたいとせがまれる毎日。走り回っていても、先生たちや他の保護者がケアしてくれるので安心です。



渡辺佳寿美さん (29)
花野ちゃん (2)
=好摩字夏間木=

③みんなで育てる

ワーク・ライフ・バランスを進め、
まち全体で子育てを支える体制に



●子育てサロンの実施を支援

民生委員・児童委員が親同士の交流や悩み相談などができる子育てサロンを開設する際に、情報発信などの支援をしています。現在、子育てサロンは市内6地区にあります。



松園地区の
子育てサロンの様子

●働く人も子育てに関わる

ワーク・ライフ・バランスに関する講座などを開催し、働く人も育児に関わりやすい環境づくりを進めるよう、企業などに働き掛けています。

●子育て支援活動への助成

子どもの健やかな成長のために、28年4月に「子ども未来基金」をつくり、1億円積み立てました。28年度は企業や団体から約290万円の寄付があり、約600万円を市民団体などが行う子育て支援活動に助成しました。

松園地区の子育てサロンを利用して、家にある材料でもできるおもちゃの作り方を教えてもらったり、子どもの年が近いお母さんと話せて楽しいです。手作りおもちゃに子どもも夢中!

千葉美沙さん (28)・公陽くん (10カ月)
=西松園三=



市長コラム No.5 力を合わせて子どもを育み、 未来へつなげよう

盛岡市長 益藤 弘明

私が子どもの頃は、隣近所の家にながら物顔で出入りして(笑)、一緒に食事をしたり、自分の子どものように接してもらってました。一方で自分の子どもとは、一緒に剣道をしたりもしましたが、仕事が忙しく、子育てに関わる時間が十分だったろうか——と思う時もありますね。

子どもは地域の宝。これからの盛岡を背負って立つ大切な存在です。子育ての孤立化が問題になっていますが、市民の皆さんが少しずつ力を発揮することが、子育て中の親を支え、子どもを育むことにつながります。盛岡のまちを明るい未来につなげるために、一緒に取り組みましょう。



みんなで子育てを支えるまちに——

子育ては、親だけでなく地域や社会全体で支えるもの——。それは決して言い過ぎではありません。バスの中や病院の待合室など公共の場で子どもが泣いてしまい、お母さんがあやしても泣き止まない光景を見たことはありませんか? 「うるさいな」と、内心感じることもあるかもしれません。けれど「元気なお子さんですね」とにっこり微笑みかけてみてください。それだけで、「みんなに迷惑をかけている」といたたまれない気持ちになっているお母さんの心はスッと軽くなるのでは。

こんなふうに、誰でもできることはあります。そして、子どもや子育てに優しい人がいるまちは、誰にとっても住みよいまちになるでしょう。

私たち一人一人、地域、企業そして行政が、それぞれにできること、やるべきことを考え、実践していくことで、子どもたちと盛岡の未来につながっていくはずですよ。

今回の特集について①記事の内容②デザインやレイアウトへのご意見をお待ちしています。回答は市公式ホームページ専用フォームかはがきでお寄せください。住所、氏名、年齢、職業も忘れず明記してください。8月14日(月)17時必着です。
【広報ID】1020399



抽選で10人に、盛岡特産品ブランド認定商品をプレゼント!

